

◇エベルト爾職説

◇物給経路通告

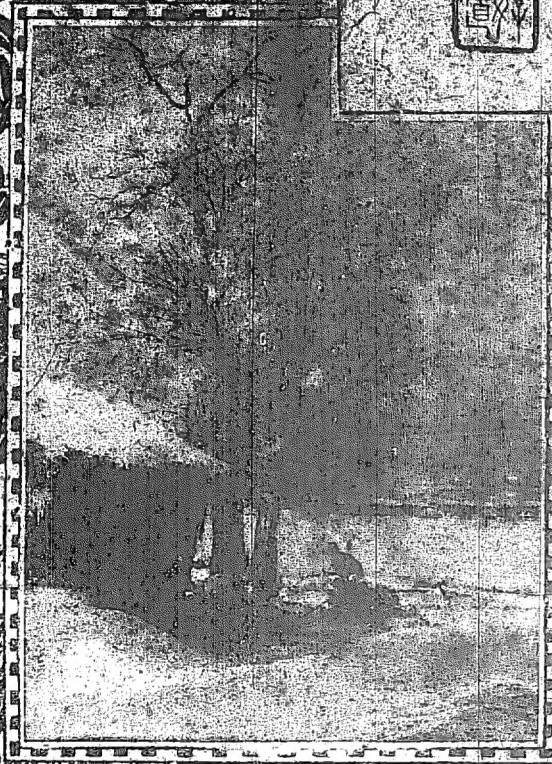
◇オプ代表者出發

京城日報

長谷川
賢試筆
晴雪

瑞光

大正八年春
浩堂題



朝晴雪

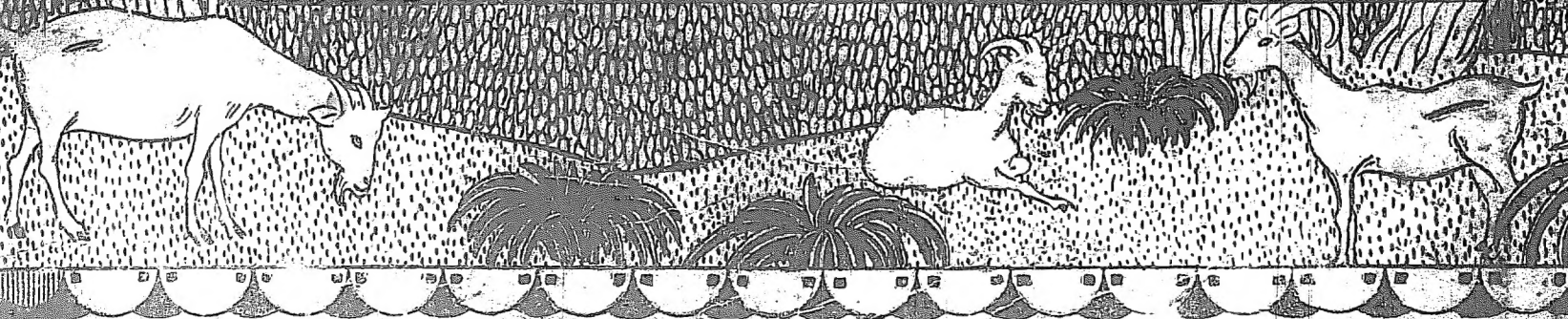
私擬應制
有序

帝御六龍曆開三元履端建寅
正始在木赤城霞舉呈禎祥於
昌辰紫禁日麗揚慶瑞于新陽
伏惟

今上九五龍飛奉神器以立極
統乾綱而稽範允文允武聖德
日躋克長克君皇猷歲恢鼎命
體元王正重八萬邦具瞻親善
之詠月照兆民時雍平章之揆
日新貌繇出塞朔漢頓絕塵氛
鯨鱗海西陲遂觀鯨鯢咸熙
八荒光格四表是誠振古盛事
貽遠大謀草莽微臣等不知所
以措辭竊賦私擬應制一篇以
頌聖世

臘雪晴元旦江山改舊姿
曆開添歲漏春返隔年枝
太液瓊冰合仙掌玉溜垂
兔園追漢賦銀海記蘇詩
振旅班師日建旄發軔時
戰塵銷朔漠兵氣散西陲
洗眼韶年景伸眉介壽卮
乾坤正淨盡煌燿映晨曦
大正八年一月元旦

京城日報社員等



講和と英米意見

講和と英米意見に對する。英米兩國の意見は、講和の實現に重大なる影響を與へるものがある。英米兩國の意見は、講和の實現に重大なる影響を與へるものがある。



昌德宮の新年

宣政殿晴れの祝賀式

昌德宮の新年。宣政殿晴れの祝賀式。昌德宮の新年。宣政殿晴れの祝賀式。昌德宮の新年。宣政殿晴れの祝賀式。

陸軍始觀兵式

陸軍始觀兵式。陸軍始觀兵式。陸軍始觀兵式。陸軍始觀兵式。

陸軍の御正月

陸軍の御正月。陸軍の御正月。陸軍の御正月。陸軍の御正月。

歳旦祭

平和の曙光に

平和の曙光に。平和の曙光に。平和の曙光に。平和の曙光に。

東東北の方

東東北の方。東東北の方。東東北の方。東東北の方。

元旦の天候

元旦の天候。元旦の天候。元旦の天候。元旦の天候。



未歳生れの名流

松方内大臣

杉孫七郎子

未歳生れの名流。松方内大臣。杉孫七郎子。未歳生れの名流。松方内大臣。杉孫七郎子。



Illustration of several people, likely a group portrait.

未歳生れの名流。松方内大臣。杉孫七郎子。未歳生れの名流。松方内大臣。杉孫七郎子。

觀 偉の號別特年新るせ溢横に紙滿氣の新清よ觀

朝日新聞

民主政治樹立

民主政治樹立。民主政治樹立。民主政治樹立。民主政治樹立。

世界の大勢

世界の大勢。世界の大勢。世界の大勢。世界の大勢。

委任政治

委任政治。委任政治。委任政治。委任政治。

伊藤博文公

伊藤博文公。伊藤博文公。伊藤博文公。伊藤博文公。

平和の新年

平和の新年。平和の新年。平和の新年。平和の新年。

獨逸の革命

獨逸の革命。獨逸の革命。獨逸の革命。獨逸の革命。

海運業の現在

海運業の現在。海運業の現在。海運業の現在。海運業の現在。

講和問題

講和問題。講和問題。講和問題。講和問題。

自覺

自覺。自覺。自覺。自覺。

博士を射殺せり原因はウ博士が石田氏を

新水

新水。新水。新水。新水。

謹賀新年。謹賀新年。謹賀新年。謹賀新年。

新年附録其一



大内山雲の元朝
四方拜の御儀

神皇正統記の御代に於ける御儀

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Text describing the rituals and historical context of the New Year festival.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the rituals.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the rituals.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the rituals.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the rituals.)

第一の御所

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Text describing the first shrine and its significance.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the first shrine.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the first shrine.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the first shrine.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the first shrine.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the first shrine.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the first shrine.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the first shrine.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the first shrine.)

芽出度と勅題

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Text describing the 'Moyodeto' and 'Chido' rituals.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the 'Moyodeto' and 'Chido' rituals.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the 'Moyodeto' and 'Chido' rituals.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the 'Moyodeto' and 'Chido' rituals.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the 'Moyodeto' and 'Chido' rituals.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the 'Moyodeto' and 'Chido' rituals.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the 'Moyodeto' and 'Chido' rituals.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the 'Moyodeto' and 'Chido' rituals.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text describing the 'Moyodeto' and 'Chido' rituals.)

東洋政策の根柢

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Text discussing the foundations of Eastern policy.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text discussing the foundations of Eastern policy.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text discussing the foundations of Eastern policy.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text discussing the foundations of Eastern policy.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text discussing the foundations of Eastern policy.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text discussing the foundations of Eastern policy.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text discussing the foundations of Eastern policy.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text discussing the foundations of Eastern policy.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text discussing the foundations of Eastern policy.)

新春詞壇

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Text featuring New Year poetry.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text featuring New Year poetry.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text featuring New Year poetry.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text featuring New Year poetry.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text featuring New Year poetry.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text featuring New Year poetry.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text featuring New Year poetry.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text featuring New Year poetry.)

神皇正統記の御代に於ける御儀... (Continuation of the text featuring New Year poetry.)

主フンベルト、衛王カス、希
王ジョージ等、俄も連年の下に
免れたるの歴史あり、然るに是
の事件が國際政局の危機を、戰爭
に導きしめざれば、に唯獨、地
球の呼吸が事件に於て緊張な意
味を有せども、兎れ其ものに付
いてよりも、戰の時待たねばならぬ
たるに外ならずとも、明年和三十
十年間の裏面に、歐米は於ては
經濟的問題を惹き起され、水災やミ
國債生を帯び、暴落、更に一種
には恐怖なる危險物の発生を見つ
けり折柄、此のサラエヴォ
事件によりて、密な點火爆發せし
に外ならざる也。總て史上大事
件は其原因は間々暗黒裡に感ぜし
り、

運動的なりと云へば、獨逸は
獨り能動し、進行歩歩し、大海
軍の基礎を據え、遂には經濟上
の必要より、國民心理の變化より、
其政策をも、變じ、遂に世界政策
を確立するに至れり、茲に獨逸
の此世界政策は之を管へんとす
英佛露三國商側に取つては、大
なる威嚇となり、且つ嘲笑的な
一手段、斯く外交上の危機は避
けが難し、能く戦争の
禍根を同進して、ありしが、千九
百十四年七月、獨逸の頂上に達し
居たりし歐洲の外交界は、急にサ
ラエヴォに於ける、一青年の無鉄砲
の行爲と共に、最後の幕を切つて落さ
るゝを要するに到ち、戰爭の主要
條件を踏んで、更に白耳海の手懸た
頭、の機嫌を立て、佛軍はリエジ
ツ湖の全運命をかけるヲフル、(註
)此の大逆襲に處する、果
て如何なる破滅底果ありや、世間
は驚つて將軍の手に捧げし也。

佛軍の逆襲

此時巴里の南方ナンシー、グラ
ン・カンヌの兩役に於て、獨逸は
獨り能く鐵血の進出を喰ひ止めた
大勢は如何にもしく、獨逸の
進出は依然として、九月一日に
はジャンチーリサン、ランロー
ニ、埃にエルク塔を現はすと、
巴里の陥落は僅か三日の間、必
ず成らせ、奇策が巴里の危急を解
(以下三頁へ続く)

1

御料理 才
電話六二

マルヌの役

き急行マルス河を渡しては其翌三日に佛軍同日より以て、決然と退却を終了し、シヨウフル鐵橋は漸次撤去せられ、佛軍の進取行動は悉く断たれり。獨逸は九月七日、白蘭ツ塔の佛軍第一防禦線に於けるモトアージュ要塞を陥落するや、此兵力が射撃で門戸の正面に向ひたるは、作戦失敗の第一にして是の佛軍の強硬に遇ふや其鋭利な進攻は同日マルスを縫切りて退却の止むなきに至れり、而して一方チツシュン將軍のラフエリオン・ブナンの一營事ヲ所を牽引し、獨逸は遂にダイツリーの陣地に追詰められ、防禦戰を開始するに至れる時に九月十日。

五日、獨逸大率イーブル攻勢せるも、佛軍死力盡して防戦し、敵の侵入を喰ひ止め、間もなく一年は不利を蒙りて越年せり。

開戦第二年

九月十五日は、獨逸主力を東部戰線に集中するが故に、西部戰線は前年に比し、獨逸の姿なりし爲、聯合軍にありては、此の期間に乗じて、嚴密な準備を怠らしたる東方戰線に於ては、勝ち誇りたる獨逸は兎しも、敗走を止め、マクソン將帥獨逸軍、其處名を奪はせざるを得ず。

然れども此の際に於ける獨逸軍、飯沼隆賢觀察の結果は、頗る偉大なるものありし也。

獨逸の攻撃は相繼相殺せしも、三月三十日に至り、再び獨逸軍大攻勢を命ぜらし、耐火ミ、燃焼液ミ、毒瓦斯の機を作りて猛襲せり。佛軍死力を盡して幸へ脱せたり。獨逸軍は、ゴオモンの東南サウツ村に轉じ、佛軍は遂に同村を陥没するの止むを得ざるに至れり、四日ゾオモンに於ける獨逸の突破は、確實に阻止せられ、二十九日獨逸は三度南方面の攻勢を始め、一度はマースの西方、アズオクトールの嶺さ、死人丘の間に於て、一隊はマース南西丘陵に於て又復耐火ミ、燃焼液ミ、毒瓦斯の機を作つて猛襲し來り、更にゴオ

正聲細々を察知し、完全なる獨立の家國たるを宣告せり、西部戰線に於ては一月十日、英軍、ソングル江附近に於いて攻勢を始め、ボモンタンに於て獨逸軍の抵抗を破り、獨逸軍は斯かる共々に頓首降参すを呈し、二月十五日を以て、獨逸はマルス以來の大退却を開始し、ドリー、プロットを踏まとしてセルバ、マロツ、マンケールを擡棄し、海峽彼岸區城擴大し、ペロンヌ、メグヨン、ネスは聯合軍の手中に留し、獨逸は連合軍の線迄退却せし、聯合軍は三月十日迄に五百五十の第ニ、千三百四方兵獨逸軍並に進取行動を繼續せり、其後聯合軍は進出進行を斷つて獨逸軍の勇氣を挫き、獨逸軍に果敢

エーヌの役

マルヌの役

フランスの戰術は南シエ方面に於て、砲車が進出せんとする獨逸を食ひ止めたが同戰の豫示にしも九月三日ヨツフル將軍が斷然獨逸の作戦を樹てたるを其降辱し、フオツシェ將軍の策巧事功に、遂に石匠破竹の勢を以て、露跡の如く侵入し來れる獨逸を擊退せるが此點に二週間ならすして、其戰勝の第一因を作りたり。獨逸軍ジャッフル將軍の手柄さ云はるべからず、ヨツフル將軍の勝利は、獨逸ローリング、ホーフエンの戰略も、如何く獨逸最高司令部の戰略も、ジャッフル將軍の其れに劣りたるに外ならず也。

時に記すべき大活動なかりしも十二月二十日露國ニユルシヤ方面で占領して獨逸に進出し三月十二日獨逸の逆襲より失收し、ユルシヤ方面の猛烈なるものの味手に至り、獨逸軍北方面に於て攻勢に出たるもの、間もなく止し、ランス・ブルゴニ間の戰闘に相入るべきものあり、九月廿九日、英軍ノに迫り、獨逸兵亦シャンパーニュ方面にて攻勢を取り、獨逸砲臺を突撃してタウールを占領したり、英國ケツチナ一區面が暴露に思ふごとくして途中獨逸海艦隊の乗船被虜となり、遂に溺死を蒙るなり、實に同年六月十六日の敗北事なりし處に比し、

前東岸に於て攻勢を加へたるも、獨逸軍戰事に陥つめれば、佛軍司令官ベタハ將軍は、ゲエルマンのヒロアと共謀に名聲を擧げ、五月七日昇進して共に、ツァンシ、セウルタン間の佛軍司令官に任命せられたり、五月二十五日獨逸は巴黎師團の助力を得てゾラに至るガズラン内驛を繼ぎしも、佛軍獨逸強逼にして動かざる事山の如く、獨逸の死傷甚だしくタルカ前線に三十三萬騎、獨逸の損失は、實に三十九萬騎に上りぬ、斯く獨逸軍高知全部の戰略は三度敗れ、今又獨逸は佛軍の才雄勇猛を費せて

月中旬に至つて獨逸はヒレ、テンブ、ルダ總十哩を占領し、佛軍又タクローアン高原全部を占領せり、千九百十七年八月は猶んご獨逸の志氣を以て終りにせん、二月三十米獨逸の外交は斷絶し、米獨逸兩國並に佛國に閉鎖したるは、六月六日よりなり、而して三月十五日は露國に革命ありて、九月十五日共和制を宣し、十二月廿二日露政府は獨逸土、勃に對し講和議事をアレストドリトウスに開き、爾後露國は開戰四年間に於て遂に屈服せり。

開戰第五年

開戰五年目たる千九百十八年四月九日、二月九日露國過激派、一月七日セウルタンに於ける獨逸軍の降参に、可惡極に大敵獨逸に對し、空に鐵騎四萬餘人を率ゐる、平野の曙光に接し、本初陣に於て獨逸會戰の機会を得るに到れり、ヘグ師團は、曾々今次大戰の露國の勝利は、唯戰術に於て決定すと信じて居り、實に其の言の如し、勝利！勝利！露國は遂に能く勝ち。

新年文藝

◇下旬付◇

「アラビヤ」
一等
宮崎寒扇子
平等喜望花
○アラビヤの花ある御代の春
二等

開戰第一年

[illegible]

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

[illegible]

新年文藝

十二月七日セゲンの陥
 奪は遂に休戰條約に調
 兵に、空に大戦艦四隻年十一
 月を以て平和の曙光に接し、本
 初頭に於て講和會議の開會を早
 にせり、ヘーグ將軍は會
 次大戦の最後勝利は、四
 決定すべし云へり、實に
 の言の如し、勝利、勝利！
 遂は遂に降服せり。

開戰第五年

句に至つて英軍はヒンデンブ
 ールを占領し、佛軍又たク
 ンリッヒンゲン高原全部を占置せり、千
 七十七年、猶ん其の獨逸の大軍
 交は斷絶し、米國第、同派遣
 艦に押寄せたるは、六月廿
 二日なりき、而して三月十二日
 に革命のりて、九月十五日
 に國を占領し、十二月廿日
 府は獨逸主、勢に對し議和
 をアレスドリト、ウスタに

氏の如きは『佛國民の血戦』

東岸に於て攻勢を加へたるは、佛軍の事に絶つたれば、司令官ペタン將軍は、デュエルとヒョーロフに對し、その日の五七二日間に、ツギシ、シュエタ間の佛軍司令官を捕せられたり、五月二十五日は巴威師團の能力を得て、ザンスタを奪ひ、ノルマンディを繼ぎ、佛軍總司令部に到らせしむる如く、獨逸軍威嚇したる前線より、獨逸軍の損失は、砲三千五百挺に達するに至り、解く獨逸軍の戦略は三戰敗し、各國佛國の壯勇實證せず

十月廿四日に至り佛軍

ソニムソニムの役
五月五號軍はタオ要港を失つた。其他の方國に於ては能く防衛し、プローム要港を奪失ひ、忽ち奪回し、花柳聯合會を組織せり。ソニムを捕虜に約、週間に亘り敵艦艇を捕獲せし。七月一日ソニム河内府南門の面に於て對艦砲撃し、砲臺の附近に於て五挺機出し、ドボンエールを占領し、捕虜五千五百を得たり。英艦亦リクチュルを領して捕虜約一萬を得。政務は九月下旬迄繼續し、佛艦は日、英艦は夜、

11

開戦第四年

兩軍の兵力

要せざるが故に、翌後の一俾
月廿一日を以て同戦線に試み
、其結果英軍はアミアン正面
ブル附近に退きペロンヌ、
ムル水で降り更に人をし
ム合軍危機の再来を慮からし
、フオツシュ將軍の「東總
」に任命あり、聯合各國は大
たれを歡迎し、將軍亦心中自
る處ありたり。

1

作題に計置あり。元來鎮西は
 一統の命を以て、李が此失の割合
 を得る處少きに失す。少し
 づの顔色現はれたる上に、職
 臣は威に使用し整へ居るに
 於て、寧ろ無謀の第一
 歩を喰ふ事なし。然し、大
 坂前軍を有す點に於て四
 萬前鋒將士の試みたら、フェ
 シヤンが歴史の歴史の空
 飛鳥を有利なる
 之れを大膽よの
 見れり。四年前のジョフル將校の、
 御逆進、フオンヌ將重

[illegible]

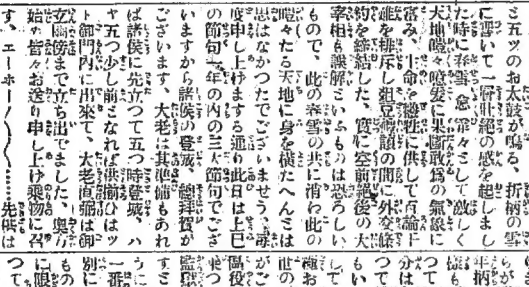
胡馬南來久不歸。山河踏破一身歸。
功名我許雲邊過。歲月驚人柳絮飛。

三浦志摩守前を過ぎ、西尾隠

是に發
ります
の門二
自宅が
ある勿
論三民
小

物部三

午前七時半頃、例の通り



守内火附盜賊改め役田兵衛であるをいふのも束の間になつた一度又

黙つて居て呉れよ
 シ鳥田の屋敷
 今朝我事畢
 芳勢任人言
 五十六

か
登
山
の
た
ま
な
を
身
を
棄
て
、
君
を
尋
ね
る
は

100

村次左衛門手を拍つて 次「さう
三隻

岩が根を砕けざらめや武士の國

時に春雪愈霏々として激しく

ますから諸侯の豊穡、饗拜賀が盛ん
になります、大老は其に補もあられすこ

「大老々」

10

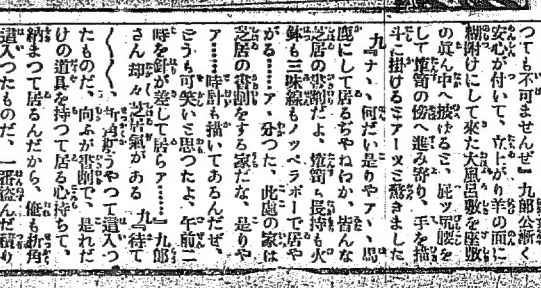
起上つた佐野武之助は再び
 ながむて 武蔵頭下へぞ
 橋田の存之助は暗きとも
 なき緩むべき日本魂

中には餘り雪いから日切ては
 年をお祝ひ遊ばすやうに願
 めない、三、ふ力で、
 帝

雲山ある處のや
道具一つ持つてか
れたつて早

かんから、泥棒でもして見
が大きいぢやアありませんか

10



こんな氣樂な話が擧げ下駄へられ
畜生奴、晝間から鼠が天井で綱渡
うでい、正月らしいな、ヲヤノ

「ア、正月だ、斯んな真昼で……妻かな、電氣津の師匠……」

大くししょういふ考へは無い、
て獅子を萬歳なら小言をいふ奴は
守三匠つた……然らば愈お

10

斗に掛けるニアーツを驚かしました。

向ふが書刺で、是れだ
 たものだ、

クコトイ、スボン……此奴を虱居

呂敷へ入れた積りにして……所

く俺も之居掛りで行かう、已不



三井物産株式會社

正 賀

株式 朝鮮殖産銀行



謹賀新年

本社 大連市山縣通

大連汽船



株式會社

出張所
代理店
安東縣出張所
青島出張所
天津出張所
神戶出張所
旅順出張所
龍口支店
龍子支店
上海

大連支店 每月六回
青島支店 每月五回
天津支店 每月五回
神戶支店 每月五回
旅順支店 每月三回
龍口支店 每月三回
龍子支店 每月三回
上海支店 每月三回

謹賀新年

目丁一通州義城京

社會式株草煙鮮朝

電話一七八七
番〇七三二

謹賀新年

目丁二町金資府城京

合組賣販同共油石城京

電話一四九二番

支配人

鶴田綱太郎

福田又支店

鬼頭千藏

淺海助太郎

前田悅造

梶原末太郎

共益社

釘本藤次郎

組員

謹賀新年

群山港本町

三井物產株式會社

群山出張員

電話長二番長三四四番

謹賀新年

京城本町三丁目

和洋金物商 佐藤半次郎商店

電話一四三番電話一〇番
振替口座東京二二〇番

謹賀新年

京城黃金町一丁目百壹番地

合資清水組京出張店

電話三四九番

(本店) 東京
大田區 大田
多摩郡 大田

謹賀新年

群山港本町

群山米穀商組合

電話長四九番
電話三一四番

謹賀新年

(いろは順)

花本洋行 濱子洋行 大田洋行 奧田洋行 吉田洋行 土谷洋行 遠藤洋行 淺川洋行 菱川洋行
電話一四八番 電話一四八番 電話一四八番 電話一四八番 電話一四八番 電話一四八番 電話一四八番 電話一四八番 電話一四八番

謹賀新年

合組屋質城京

謹賀新年

安東信託公所 鈔票定期

取引所 仲買店 (いろは順)
原田市松商店 電話一四八番
東盛洋行 電話一四八番
大島洋行 電話一四八番
大森洋行 電話一四八番
王作臣 電話一四八番
田中商店 電話一四八番
竹本商店 電話一四八番
山口商店 電話一四八番

謹賀新年

全羅南道 榮山浦

榮山浦繩商行

謹賀新年

全羅北道 熊本農場

場主 熊本利平
住所 東京市板橋區板橋一丁目

謹賀新年

朝鮮實業株式會社 木浦支店
朝鮮興業株式會社 木浦支店
鎌田産業株式會社 木浦支店
國武農場 木浦支店
電話一三九番 電話一三九番 電話一三九番 電話一三九番

謹賀新年

京城旭町壹丁目

會料理 松秀庵 白水

電話長三九一番
別館 電話二〇〇番

謹賀新年

京城南大門外 齋藤商店

電話長三八一六番

謹賀新年

京城南大門外 中島竹次郎商店

電話長二四四番 電話長二四四番

謹賀新年

京城南大門外 河野藤次郎商店

電話長一八八九番 電話長一八八九番

戦後の遞信事業



に候との外、内閣議院に其の
船所は所在不明にして船舶の起運
に従つて色にせられ、戰艦五十六萬噸
に過ぎず。我國の造船高は正
十八年（明治十六年）には三十八萬噸餘
を輸し昨年未だ進歩すべき船舶
は海船のみにて約七十五萬噸に達
するの盛況を呈せり。開港以來合衆
本邦に對し之が供給を求めたるが
爲めより輸出したる船舶は昨午一
月中心迄に於て船舶交換會の四
十二万三千三百三十三噸〇噸同
間中我國の輸入額六萬五千二〇

に其の事實を以て周知なる用意さ
るべき點を要圖にし周到なる用意さ
るべからざるも亦海運政策上尤も
なる注意を以て振興のため便宜
を援助すを與ふること必要なり
き考へなり

通信網の擴張

又通信事業は逐年増進し之を十年
前なら明治四十年度（西一千八百六
十六年）に對比するに通常郵便の引受は七
割小郵便の引受は大割六分電報
の發信は九割三分電話の通話数は
四十八割九分を増加し其求費全額
より見るまきは平均毎年一割八分

<p>三和洋行 和洋金物 具商</p>	<p>釘本藤次郎支店 德島三和町</p>	<p>柳原 油鹽雜貨所 鎮南浦三和町</p>	<p>謹賀新年 御旅館 浪花館 鎮南浦三和町電話長一四番</p>	<p>謹賀新年 鎮南浦汽船 合資會社</p>	<p>謹賀新年</p>	<p>謹賀新年</p>	<p>謹賀新年</p>	<p>謹賀新年</p>	<p>謹賀新年</p>
-----------------------------	--------------------------	--------------------------------	--	--------------------------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

謹賀新年
平安北道道醫院
有馬長次郎
吉野武雄
平北新義州
宮川支店
電話三五番
株式會社
新義州銀行
朝鮮平北新義州

に付ては、大正八年に於ては財源の許す限り之を事業上必須の設備を計上せり即ち事業の増進と對しては二百六十萬圓電信回線の新増

謹賀新年

全州

米穀商宮永友枝

全州

岩崎虎次郎

松山縣中谷作次郎喜

張憲植

連發據に對しては約一千三百萬
 圓を増強し従軍員優遇獎勵に對し
 ては四百三十萬圓を計上せしに依
 り之華の糧秣成立の曉は電信船
 始め郵便の業務共明か顔面目を明
 々略公衆の期待に添ふことを得
 (に幸なり東京支局)

新年文藝

謹賀新年

全 燭

林鑄物工場

洪 命 憲
洪 性 憲

一題「船」
 一等 愚舟遊近城 根木 徹子
 ◎大正にカチ 山の船が出来
 ◎二等 京都類聚町七馬路方 神崎白樂天
 ◎蒲船に帆を巻ける 須客は漕ぎ
 同
 奥國曹州 森山うらなり

謹賀新年
長春旅館業組合

御料理 銀杏
電話101
謹賀新年

三 等
 四方山の詰まて乗る船の中
 桑田宗春 櫻本 義男
 町 ○九光 佐々木 良子
 船頭の棒に釣かるゝ、楚腰隠
 同
 日川本町四丁 矢谷 花翁
 目下下町方
 同
 龍床から飯を焚いてる船主帯
 血山京町三西 羽間 辰蔵

謹賀新年

長春取引所
信託株式會社

電話八三二〇番
三二〇番

（董事會秘書所）
（專務社宅）
（社員社宅）

忠北自働車組合
電話五五番
停留所美江、會坪、陰城、大石院
忠州、平洞、茂朱
謹賀新年

外へ遊びに往く式を考へてゐる。所々白紙の
 通達
 京城やなぎ
 聞れりかな雪に平野の飛鳥
 水戸の花魁
 船成金助れりて聞いて前番
 京城 松本 奥一
 船乗はては馬をばし一所也
 奥羽沖城 野田 磯崎
 又また市原に人々にてからわれ
 久松 久川 月桂
 初夢に雲船見る非猿轡
 京城 竹内う子

謹賀新年

欄寸製造及販賣

長春城內西三道街

日清燐寸株式會社

電話六六番

御料理
 北
 一樓
 電話三番
 謹賀新年
 忠北清州

[illegible]

謹賀新年
安東縣市場通四丁目
金物店
河野商店
電話四三八番

忠清北道警務部長
前田良太

△眞の楽しみは

一家の成長

子供は成長する。それは、親にとって最大の楽しみである。子供が成長するにつれて、親は子供の成長を喜び、子供の成長を望む。子供の成長は、親にとって最大の楽しみである。

△安野夫人

安野夫人は、日本の有名な作家である。彼女は、小説、随筆、児童文学など、さまざまな分野で活躍している。彼女の作品は、多くの人々に愛読されている。

△賑やかな事

賑やかな事は、人々を喜ばせることである。賑やかな事は、人々を喜ばせることである。賑やかな事は、人々を喜ばせることである。

△羊の草餅

羊の草餅は、羊の草を餅に包んだものである。羊の草餅は、羊の草を餅に包んだものである。羊の草餅は、羊の草を餅に包んだものである。

△羊の占

羊の占は、羊の占いを指す。羊の占いは、羊の占いを指す。羊の占いは、羊の占いを指す。

△羊の占

羊の占は、羊の占いを指す。羊の占いは、羊の占いを指す。羊の占いは、羊の占いを指す。

△羊の占

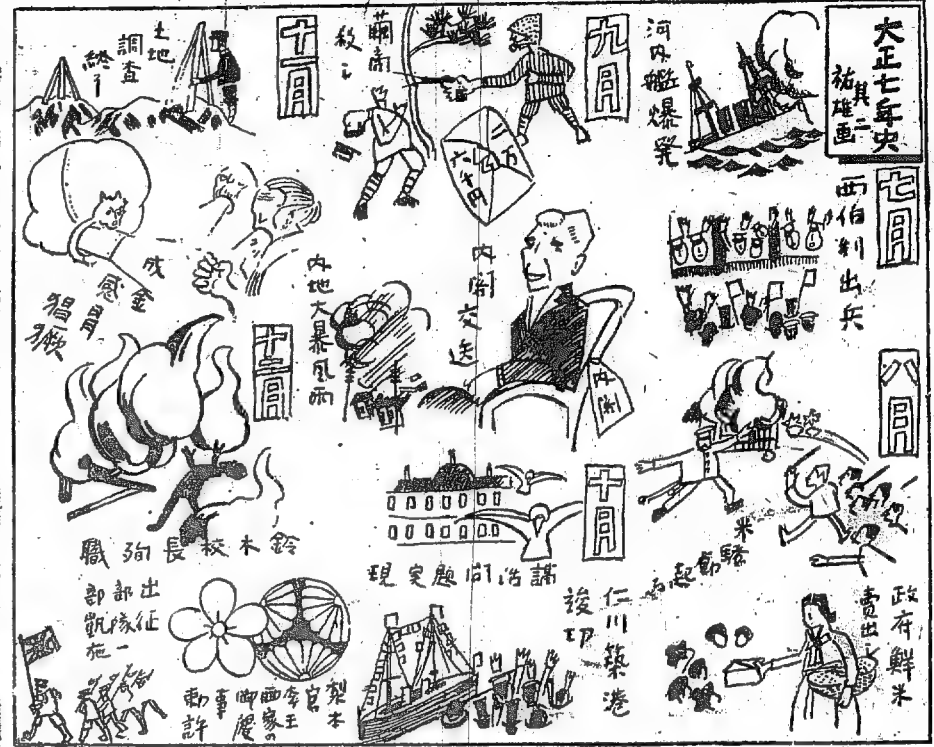
羊の占は、羊の占いを指す。羊の占いは、羊の占いを指す。羊の占いは、羊の占いを指す。

△羊の占

羊の占は、羊の占いを指す。羊の占いは、羊の占いを指す。羊の占いは、羊の占いを指す。

△羊の占

羊の占は、羊の占いを指す。羊の占いは、羊の占いを指す。羊の占いは、羊の占いを指す。



△羊の占

羊の占は、羊の占いを指す。羊の占いは、羊の占いを指す。羊の占いは、羊の占いを指す。

謹賀新年 平塚銀治郎	謹賀新年 小柳英雄	謹賀新年 那須商店	謹賀新年 中川千吉	謹賀新年 藤田支店	謹賀新年 小田金平	謹賀新年 村松與惣治	謹賀新年 野上代三郎	謹賀新年 沼田虎治郎	謹賀新年 齊藤禮三	謹賀新年 河野榮太郎	謹賀新年 宮本政藏	謹賀新年 井上主計	謹賀新年 徐相免	謹賀新年 松賀屋旅館	謹賀新年 植野精米所
謹賀新年 満留嘉久商店	謹賀新年 山口商店	謹賀新年 三浦出張所	謹賀新年 森山病院	謹賀新年 三浦醫院	謹賀新年 福久家	謹賀新年 愛媛館	謹賀新年 翠月	謹賀新年 明良醫院	謹賀新年 丸田商店	謹賀新年 山城壽	謹賀新年 御料理松	謹賀新年 富士の家	謹賀新年 福島庄平	謹賀新年 高島屋	謹賀新年 酒場

謹賀新年 日本醤油株式會社 電話七五一番	謹賀新年 朝鮮燐寸株式會社 新義州支店	謹賀新年 朝鮮燐寸株式會社 新義州支店	謹賀新年 仲買店 今村覺次郎
----------------------------	---------------------------	---------------------------	----------------------



